

第7回地域医療・介護研究会 レポート

日時：2015年5月1日(金) 18:30~20:00 晴
場所：ちどりビル2F 参加者：57名

今回のテーマは、今後の地域包括ケアでは避けて通れない“認知症”をテーマとしました。認知症対応型デイサービスゆとりの井上さんに報告していただいた他、同様のサービス事業を持つケア21福岡の方々に多く参加していただき、認知症にまつわる取り組みや課題について学び交流しました。



井上さん(左写真)の報告では、認知症対応デイでの取り組みが紹介されました。ゆとりの平均介護度は3を超えている一方で、ほとんどの利用者が歩行は自立。利用者が生活の一部として通い、家族のレスパイトの意味もあり、週3回利用も少なくありません。他の通所サービスが合わなくなった方、自宅から出ない方が多く、ゆとりでは顔を覚えてもらい安心してもらうためにも、初めは短時間利用やそれまでの通所利用を少し維持しながらの利用とし、急な利用にも柔軟に対応するといったことに努めています。

利用者には様々な理由で食事を食べない理由があり、個々の特性に合わせた対応を考え、工夫して食事を提供しています。例えば以下の3点などです。

通常ご飯とおかずは別の皿に盛られていますが、いわゆるどんぶり飯にし、視点を1点に集中させ易くする。どんぶり飯でも、ごはんが見えてないと手を付けられない方もいらっしゃいます。

仕事をしていた頃に弁当が多かった方には、仕切りのあるトレーに盛りつけて弁当の様に見せる。持って食べる習慣が身についている方で、器が重くて持てない方には、軽い器を用意する。



入浴については、難色を示す利用者がとても多く、個々に合わせた声のかけ方、タイミングを工夫しています。特徴的な例では、何も話しかけずに案内すれば入る方もいます。

その他、洗濯機まで一緒に行き、一連の選択動作をすることで生活機能維持、一度に複数人で声かけをせず、決まったスタッフから話しかける様にするといったことに取り組んでいます。

在宅での認知症会議は24時間、365日で考え、通所の7時間だけでなく、その他の時間をどう充実してもらえるか、他事業所と連携を図ることが大切です。

< 80代女性、独居、認知度の事例 >

発語が少なく、几帳面で猜疑心が非常に強く、生活全般で声かけや見守りが必要な方。

通所、入浴、更衣を拒み、物取られ妄想がありました。服薬管理、義歯の管理、朝食の提供、夕食配膳、衣類の洗濯など様々な努力を続け、5年間通われる中で、スタッフとの関係も打ち解けてきました。連携ノートで他事業所と情報共有も図りました。

関わったケアマネージャーから・・・ゆとりに初めて行った時のことを、最初に熱いお茶を出してくれて「来て下さってありがとうございます」と声をかけてくれたことが嬉しかったと話してくれたことがありました。認知症の方の言葉にならない気持ちにいに寄り添うかの大切さを学ばせてもらった。



CM 矢野さん

グループディスカッション

・入院を期に認知症が進むこともあれば、入院して症状安定後にスムーズな在宅サービス利用につながるケースも多い。入院と在宅との連携も大切。

・実際の在宅、生活の現場を知ることができた。認知症だからと決めつけた接し方をしない職場の雰囲気作りの大切さを学んだ。

< 感想レポートより >

・その方の生き立ち、生活歴から根気よく関わり信頼関係を気づくことの大切さを感じた。

・認知症の方には言葉で表現できない方もいて、その方の思いをくみ取り心の思いを聞き援助していきたい。